

助産診断技術学 I

| | | | |
|--------------|------------------|--------|----------|
| 責任者・コーディネーター | 成育看護学講座 西里 真澄 講師 | | |
| 担当講座・学科(分野) | 成育看護学講座 | | |
| 対象学年 | 3 | 区分・時間数 | 講義 12 時間 |
| 期 間 | 後期 | | |
| 単 位 数 | 1 単位 | | |

・学修方針（講義概要等）

周産期のなかでも妊娠期に焦点をあて、妊娠各期（妊娠初期・中期・後期）における健康状態をアセスメントする方法について学ぶ。それを踏まえ、妊娠経過に応じた具体的な助産診断とそれに基づく助産ケアについて、事例展開をもとにその基本的内容を学修する。具体的には、妊娠経過（妊娠初期・中期・後期）に対応したアセスメントとケア、日常生活におけるケア、親準備へのケアおよび助産過程（事例展開）について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

妊娠経過に伴う健康状態の変化とこの時期におけるアセスメントの基本を学ぶことにより、妊娠各期における母児の健康状態の助産診断方法と健康の保持・増進に向けて必要な助産ケアを考えることができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：2, 3, 4, 5, 7

・到達目標（SBO）

1. 妊娠初期における健康状態のアセスメント方法について説明できる。
2. 妊娠中期における健康状態のアセスメント方法について説明できる。
3. 妊娠末期における健康状態のアセスメント方法について説明できる。
4. 妊娠週数や健康状態に応じた助産ケア方法について述べるができる。

【講義】

| 月日 (曜) 時限 | 講座(学科) 担当教員 | 授業内容/到達目標 |
|--------------------|----------------------|---|
| 8/30 (水) 3 限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 助産師が行う妊娠期のケア (演習) ・ 妊娠期における助産ケアの概要と助産師の役割について、演習を通じて理解することができる 【事前/事後学修】 「助産学概論」 (3 年前期) 最終日に提示する課題に取り組む (各 30 分以上) |
| 8/31 (木) 3 限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠経過に対応したアセスメントと助産ケア (グループワーク) ・ 妊娠経過に対応したアセスメントと助産ケアについて、学生間のディスカッションを通じて理解することができる 【事前学修】 「母性看護方法論」 (2 年後期) および「母性看護学演習」 (3 年前期) の講義内容のうち、妊婦健診に関する部分を中心に復習するとともに、「助産学概論」 (3 年前期) 最終日に提示する助産技術に関する課題に取り組む (60 分) 【事後学修】 妊婦健診の一連の流れと基本的な手技について要点をまとめる (30 分以上) |
| 8/31 (木) 4 限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期の諸検査に対するアセスメント ・ 妊娠期に行われる主な検査とそれに対するアセスメントの実際について理解することができる 【事前学修】 妊娠期の超音波検査の目的と主な計測部位について教科書等を用いながら予習する (30 分以上) 【事後学修】 妊娠期に行われる主な検査とアセスメントの実際について要点をまとめる (30 分以上) |
| 9/6 (水) 3 限 | 成育看護学講座 西里 真澄 講師 | 日常生活における健康問題のアセスメントと助産ケア (グループワーク) ・ 妊娠期の日常生活における健康問題をアセスメントし、それに対する助産ケアについて説明することができる 【事前学修】 「母性看護方法論」 (2 年後期) 健康維持のためのセルフマネジメントについて復習する (30 分以上) 【事後学修】 日常生活における健康問題に対する助産ケアの要点をまとめる (30 分以上) |
| 9/6 (水) 4 限 | 成育看護学講座 西里 真澄 講師 | 妊婦や家族の親準備・出産準備への助産ケア (グループワーク) ・ 妊娠期における親準備ならびに出産準備をアセスメントしこれらを促す助産ケアについて説明することができる 【事前学修】 「母性看護方法論」 (2 年後期) 妊娠中の心理社会的変化について復習する (30 分以上) 【事後学修】 親準備・出産準備を促すケアの要点をまとめる (30 分以上) |

| | | |
|-------------------|----------------------|---|
| 9/12 (火) 3限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期の助産過程①（グループワーク） ・妊娠期の事例に基づき助産過程を展開することができる 【事前学修】 第2回講義内容について復習する（30分以上） 【事後学修】 時期に応じた妊婦健診の展開について要点をまとめる（30分以上） |
| 9/12 (火) 4限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期の助産過程②（グループワーク） ・妊娠期における想定される場面の実践を通じ、必要な助産ケアを具体化することができる 【事前学修】 第2回講義内容について復習する（30分以上） 【事後学修】 時期に応じた妊婦健診の展開のうち症状に応じた必要な助産ケアについて要点をまとめる（30分以上） |
| 9/12 (火) 5限 | 成育看護学講座 蛎崎 奈津子 教授 | 妊娠期における助産診断に基づく助産ケア（グループワーク） ・妊娠期における助産診断に基づく助産ケアを概観しながら、想定される場面の実践を通じ、助産師の役割について具体化することができる 【事前学修】 妊娠期における助産師の役割について講義資料や教科書等を用いて学修する（30分以上） 【事後学修】 妊娠期における助産師の役割について要点をまとめる（30分以上） |

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

| | 書籍名 | 著者名 | 発行所 | 発行年 |
|---|-------------------------|----------------------|------|------|
| 教 | 助産学講座 6 助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期 | 我部山キヨ子他 編集 | 医学書院 | 2021 |
| 教 | 根拠と事故防止からみた母性看護技術 | 石村由利子 編集 | 医学書院 | 2020 |
| 教 | 母子健康手帳 | 岩手県保健福祉部子ども子育て支援課（監） | 吉田印刷 | 2023 |

・成績評価方法

グループワークへの取組状況 90%、課題 10%にて評価する。なお、グループワークへの取組状況は、主体的・積極的態度・グループメンバーとの意見交換・学び合いの状況を含む。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で講義に臨むこと。講義終了後は教科書や配付資料、ノート等にて復習を必ず行い、次回の講義に臨むこと。各授業に対する事前事後学修時間は最低 60 分を要する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

課題については、次の授業等で適宜コメントを伝える。または WebClass を用いて学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

助産師（別表 2）：助産診断・技術学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

| 使用区分 | 機器・器具の名称 | 台数 | 使用目的 |
|------|---------------------|----|-----------|
| 講義 | プロジェクター (VPL-FWZ60) | 1 | 講義用スライド投影 |
| 講義 | 書画カメラ (P-100) | 1 | 講義用資料投影 |